

洪水予報に関する用語

用語	用語の意味 (法令上の根拠)	評価項目(防災用語の要件)						用語の問題点	用語改善案	改善案の理由	
		短い	耳で理解	一般語句	危険レベル	受け手の状況	意味が明確				
(〇〇川)洪水警報(般・緊)	国土交通省または都道府県が気象庁と共同して、洪水が生じる恐れを広く周知するために発表する。洪水注意報、洪水警報の2種類があり、これらを補足するために洪水情報がある。個別の河川毎に、その状況を水位または流量を、はん濫した後においては、水位もしくは流量またははん濫により浸水する区域及びその水深を示して予報される。(気象業務法第14条2、水防法第10条、11条)	○	○	○	×	-	-	洪水の危険があることは理解できるが、発令のタイミングが一定していないため、実際の行動に移すことができない可能性が高い。気象情報の洪水警報と混同する可能性が高い。	〇〇川はん濫警戒情報 〇〇川はん濫危険情報 〇〇川はん濫発生情報 〇〇川はん濫警報	◎専門家間で使用する用語自体を変更 ○防災用語としては使用せず、「言い換える」が専門用語として使用 □用語は変えず、補足説明 ■変更しない 情報の受け手が警報発令と避難等の自らの行動を関連づけることができるように警報発令のタイミング(例:危険水位超過の2時間前等)を予め定めておく。河川の洪水に関する警報であることを明確にするため、必ず語頭に〇〇川をつけて使用する。洪水に比べ、より具体的な危険事象を説明するはん濫を用いて危険レベルを明示する。ただし、法令との関係で「運用上の呼称」として使うことが可能かどうか検討を要する。 案1)洪水予報河川と水位周知河川で情報の名称を統一するため、〇〇川洪水警戒情報とする。ただし、はん濫危険水位に達したときやはん濫が発生したときは、「〇〇川はん濫危険情報」及び「〇〇川はん濫発生情報」を使用する。 案2)洪水をより危険性が明確になるはん濫に言い換える。	◎
(〇〇川)洪水注意報(般・注)	国土交通省または都道府県が気象庁と共同して、洪水が生じる恐れを広く周知するために発表する。洪水注意報、洪水警報の2種類があり、これらを補足するために洪水情報がある。個別の河川毎に、その状況を水位または流量を、はん濫した後においては、水位もしくは流量またははん濫により浸水する区域及びその水深を示して予報される。(気象業務法第14条2、水防法第10条、11条)	○	○	○	×	-	-	洪水に注意しなければいけないことは理解できるが、発令のタイミングが一定していないため、実際の行動に移すことができない可能性が高い。気象情報の洪水注意報と混同する可能性が高い。	〇〇川はん濫注意報 〇〇川はん濫注意報	情報の受け手が警報発令と避難等の自らの行動を関連づけることができるように注意報発令のタイミング(例:氾濫注意水位到達の1時間前or到達時等)を予め定めておく。河川の洪水に関する注意報であることを明確にするため、必ず語頭に〇〇川をつけて使用する。具体的な事象である「はん濫」を付して洪水、はん濫に注意すべきであることを明確にする。ただし、法令との関係で「運用上の呼称」として使うことが可能かどうか検討を要する。 案1)洪水予報河川と水位周知河川で情報の名称を統一するため、〇〇川洪水注意情報とする。 案2)洪水をより危険性が明確になるはん濫に言い換える。	◎
(〇〇川)洪水情報(般・緊)	国土交通省または都道府県が気象庁と共同して、洪水が生じる恐れを広く周知するために発表する。洪水注意報、洪水警報の2種類があり、これらを補足するために洪水情報がある。個別の河川毎に、その状況を水位または流量を、はん濫した後においては、水位もしくは流量またははん濫により浸水する区域及びその水深を示して予報される。	○	○	○	△	-	-	洪水について何らかの情報であることはわかるが、洪水の危険レベルがわからない。洪水情報は、洪水警報等の補足情報ではなく、洪水警報、洪水注意報も含めて「洪水に関する情報」の包括的用语と誤解される。	〇〇川はん濫緊急情報 〇〇川はん濫情報 〇〇川はん濫危険情報 〇〇川はん濫警戒情報 〇〇川はん濫注意情報	案1)洪水「情報」では災害の危険性が実感出来ないため、はん濫警報等の発令後の情報については、「緊急」を付して使用する。 案2)水位上昇の経過情報等で緊急情報を発表すると、重要な情報と区別が付かない可能性があるため、単に〇〇川はん濫情報とする。 案3)レベル毎に発表される情報名称が異なるため、同一のレベルでは同一の名称を使用する。	◎
水防警報(防・注)	国土交通省または都道府県から水防管理団体の水防活動に対して、待機、準備、出動などの指針を与えることを目的して発令されるもので関係機関に通知される。(水防法第16条)	○	×	×	×	-	-	何らかの危険を示す情報であることはわかるが、危険レベルが一般にはわからない。	変更しない	発令の対象が限られているため、防災担当者間での使用に限定することを徹底し変更しない。	■

般 … 一般 緊 … 緊急的な対応を促す用語
報 … 報道機関 注 … 危険回避のための準備・注意喚起をする用語
防 … 防災担当者 説 … 状況を説明するために用いる用語

短い … 短い、なるべく短い
耳で理解 … 耳で聞いてわかる
一般語句 … 一般的な語句で構成される
危険レベル … 危険レベルをイメージできる、災害の状況、危険レベルがわかる。
受け手の状況 … 受け手側の(被災)状況に合わせている
意味が明確 … 意味が明確な表現になっている

水位情報に関する用語

用語	用語の意味 (法令上の根拠)	評価項目(防災用語の要件)						用語の問題点	用語改善案	改善案の理由	
		短い	耳で理解	一般語句	危険レベル	受け手の状況	意味が明確				
計画高水位 (般・緊)	河川整備の目標としている水位。この水位以下の水を安全に流すよう堤防は設計される。 (河川法施行令 10条の2)	○	×	×	×	-	-	専門用語であり意味が理解できない これまで観測所一点の水位情報で区間を代表していたため、区間内の他の箇所の水位情報を伝えることになっていなかった。(縦断的な危険水位の設定は平成17年度に国管理区間で完了しているが詳細の使い方は今後検討)	・(防災用語では、)はん濫危険水位(で代替) ・(河川計画や堤防設計においては、)計画高水位(堤防設計水位) ・防災用語では同上 ・(河川計画等においては、)堤防設計水位 ・防災用語では同上 ・(河川計画等においては、)河川設計水位	◎専門家の間で使用する用語自体を変更 ○防災用語としては使用せず、「言い換える」が専門用語として使用 □用語は変えず、補足説明 ■変更しない 案1)これまで地点でのみ設定されていた危険水位を縦断的に設定することにし、堤防整備等の現況を踏まえた河川の危険度を表現できるようにしたため、防災上の危険度を表す水位として危険水位を用いる。ただし、河川計画等においては、従前通り計画高水位を使用する。その際、案2)の堤防設計水位を説明に付加する。 案2)防災用語としては、案1)と同様に危険水位で代替。河川計画等においては、実際の用語の意味を表現するように一般的な語句を用いて構成。堤防設計上、この水位を超えれば、想定した外力を超過する洪水であるというニュアンスがでる。 案3)基本的な考え方は案2)と同一であるが、厳密には堤防のない掘込み区間でも存在する水位であるため、包括的に河川設計水位とする。	○ ◎ ◎
危険水位 (般・緊)	洪水により相当の家屋浸水等の被害を生じるはん濫の起こる恐れのある水位。 (危険水位設定要領)	○	○	○	×	-	-	水位が危険な状態であることは解るが、危険レベルをイメージできない	はん濫危険水位 危険水位 危険水位(はん濫の恐れのある水位)	案1)語頭に「はん濫」という危険な状況を表現する語句を追加し、災害の危険レベルを明示 案2)「水位が危険な状態」であることが解れば良いという考え方に立てば、そのまま使用 案3)説明を付加することで危険レベルを明示	◎ ■ □
特別警戒水位 (般・緊)	警戒水位を超える水位で、避難判断の参考のひとつとなる水位。 (水防法第13条)	○	○	○	×	-	-	危険レベルをイメージできないため、どのような行動をとればよいか解らない	避難判断水位 避難目安水位 (避難の目安となる)特別警戒水位	案1)情報の受け手にとって具体的に取るべき行動を明示、災害時にはこの水位が避難行動の目安となる重要な水位であるため、「避難」の語句を使用。ただし、水防法において「特別警戒水位」を周知することになっているため、法令上の整理が必要。 案2)市町村長が避難勧告等の発令判断の参考とする水位 案3)法令用語を活かし、その意味を説明として付加	◎ ◎ □
警戒水位 (般・注)	水防団が出動して水防活動を行う目安となる水位。 (水防法第12条)	○	○	○	×	-	-	危険レベルがわからない。「警戒」は、一般向けには危険のレベルが高い事象であると誤解される可能性がある。	はん濫注意水位 水防団出動水位 警戒水位(水防団が出動する水位)	案1)情報の受け手が実施することが望まれる行動(洪水orはん濫に関する情報に注意)を促す用語に変更(洪水予報も「○○川はん濫注意報」として提案している) 案2)水防活動として水防団が実際に行う行動を説明する用語に変更 案3)水防団が実際に行う行動を説明として追加して、これまでの用語をそのまま使用	◎ ◎ □
指定水位 (防・注)	水防団が水防活動のため待機する水位。 (通報水位(水防法第12条))	○	×	×	×	-	-	一般には危険レベルがわからない。専門用語であり一般には意味が理解できない。	水防団待機水位 指定水位or通報水位 指定水位or通報水位(水防団待機水位)	案1)実際の行動を明示する用語に変更する。 案2)発令の対象が限られているため防災担当者間での使用に限定する。 案3)法令用語に統一する。実際の行動を明示する説明を追加する。	◎ ■ □

般 … 一般 緊 … 緊急的な対応を促す用語
 報 … 報道機関 注 … 危険回避のための準備・注意喚起をする用語
 防 … 防災担当者 説 … 状況を説明するために用いる用語

短い … 短い、なるべく短い
 耳で理解 … 耳で聞いてわかる
 一般語句 … 一般的な語句で構成される
 危険レベル … 危険レベルをイメージできる、災害の状況、危険レベルがわかる。
 受け手の状況 … 受け手側の(被災)状況に合わせている
 意味が明確 … 意味が明確な表現になっている

その他の用語

用語	用語の意味 (法令上の根拠)	評価項目(防災用語の要件)						用語の問題点	用語改善案	改善案の理由	
		短い	耳で理解	一般語句	危険レベル	受け手の状況	意味が明確				
破堤 (般・緊)	堤防が崩壊し、川の水が堤防から流れ出すこと。	○	×	×	○	○	—	「破堤」は、文字で見ると意味はおおよそ理解できるが、耳で聞いた際には解らない。	決壊(例:堤防の決壊)	◎専門家間で使用する用語自体を変更 ○防災用語としては使用せず、「言い換える」が専門用語として使用 □用語は変えず、補足説明 ■変更しない	○
決壊 (般・緊)	堤防が崩壊し、川の水が堤防から流れ出すこと。 (水防法第25条)	○	×	○	○	○	—	「決壊」は、欠壊との差異の説明をよく求められる。一般向けに使い分けの必要がない。	決壊(例:堤防の決壊) 堤防が切れる(た)	決壊と欠壊は混同する恐れがあるため欠壊は今後用いない。決壊について必ず対象が何かを明確にして使用する。	□ ○
欠壊 (般・緊)	堤防が激しい川の流れや波浪などで削り取られたり、雨の浸透により堤防の一部が崩れること。	○	×	×	×	○	—	「欠壊」は「決壊」と混同する可能性がある。	一部流出(崩壊)(例:堤防の一部流出)	決壊と欠壊は混同する恐れがあるため、危険度が低い欠壊は今後用いず、多少意味が異なる可能性はあるが、一般的な用語に言い換え、対象を明確にして使用する。	◎
越水・溢水 (般・緊)	川などの水があふれ出ること。堤防がないところでは「溢水(いっすい)」、堤防のあるところでは「越水(えっすい)」を使う。	○	×	×	×	○	—	2つの用語の差異がわかりにくいだけでなく、2つとも現代では一般的に使用されていないため、耳で聞いたときに解らない。	水があふれる(例:堤防から水があふれる) 越水(堤防から水があふれること) 川からの氾濫	案1)対象を明確にして、一般的に用いられている和語に言い換え、耳で聞いて明確に解るようにする。 案2)説明を付してそのまま使用 案3)川から水があふれていることを示す言葉として最も一般的と思われる氾濫を使用	○ □ ○
浸水・冠水 (般・緊)	ものが水にひたったり、水が入りこむこと。田畑や作物などが水をかぶること。	○	○	○	×	○	—	二つの用語の差異、使い分けがわからない。	浸水(例:○○地区が浸水)	二つの用語の意味に大きな差異はなく、浸水に統一しても混乱を生じる恐れがないため、対象を明確したうえで「浸水」に統一してそのまま使用。	■
出水 (般・注)	大雨や雪解けによって川の水が増えること。	○	×	×	×	—	—	耳で聞いた際に一般的な表現でなく、意味が理解できない。	増水 洪水	案1)ほぼ同義である一般的に理解できる用語に言い換える。 案2)ほぼ同義である一般的に通用する用語に言い換える。ただし、洪水ははん濫と同義であると誤解される可能性がある。	○
洗掘 (報・緊)	激しい川の流れや波浪などにより、堤防や川底の土が削り取られること。	○	×	×	×	×	—	専門用語であり、耳で聞いてわからないだけでなく、意味が理解できない可能性が高い。	深掘れ 侵食 流出(例:護岸の基礎部分が流出)	理解されることを優先して一般的に使用されている語句に言い換える。	○
漏水 (報・緊)	河川の水位が上がることにより、その水圧で堤防や地盤の中に水みちができて川の水が漏れること。	○	○	○	○	○	—	用語単独では、耳で聞いた際にはわからない可能性があるが、対象をはっきりさせることで理解できると考えられる。	漏水(例:堤防から漏水)	比較的一般にも理解できる語句であると考えられるため対象を明確にして使用する。	■
法崩れ (報・緊)	雨の浸透や川の流れなどにより、堤防の斜面が崩れること。法崩れが連続して生じると堤防が弱くなり、危険性が高まる。	○	×	×	×	○	—	「法」が専門用語であり、耳で聞いてわからないだけでなく、字を見ても意味が理解できない可能性が高い。	堤防斜面の崩れ 斜面崩壊	「法」の部分、長くはなるが一般的に理解できる語句に言い換える。	○

その他の用語

用語	用語の意味 (法令上の根拠)	評価項目(防災用語の要件)						用語の問題点	用語改善案	改善案の理由	
		短い	耳で理解	一般語句	危険レベル	受け手の状況	意味が明確			◎専門家の間で使用する用語自体を変更 ○防災用語としては使用せず、「言い換える」が専門用語として使用 □用語は変えず、補足説明 ■変更しない	
既往最高水位 (般・緊)	過去に観測された最高水位。	×	×	×	×	—	—	「既往」が一般的になじみが薄くわかりにくい。	過去最高水位 観測史上最高水位	「既往」を一般的に用いられている同義語の「過去」に変更する。	◎
既往最大流量 (般・緊)	過去に観測された最大の流量。	×	×	×	×	—	—	「既往」が一般的になじみが薄くわかりにくい。	過去最大流量 観測史上最高流量	「既往」を一般的に用いられている同義語の「過去」に変更する。	◎
水防警報指定河川 (防・注)	国土交通大臣が洪水により国民経済上重大な損害を生じるおそれがあるとして指定し、公示した河川。	×	×	×	×	—	—	長い。	水防警報河川 水防警報指定河川 水防警報を行うことが指定された河川	案1)指定を抜いても水防警報に関係する河川であることは解るため指定を省き短くする。 案2)水防警報を行うことが指定されている河川であることは事前に周知すべき情報であり、改善する必要はない。 案3)水防警報を行う河川であることは事前に周知しておくべき情報であり、あえて単語として短くする必要はないため、多少長くても意味を具体的に記述する	◎ ■ ○
水位情報周知河川 (報・注)	洪水の被害を少なくするために、市町村長が発令する避難勧告の目安となる水位である特別警戒水位を設定し、特別警戒水位に到達したことを住民に住民等に周知する河川。(中小河川の特別警戒水位設定要領)	×	×	×	×	—	—	水位のどのような情報かわからない。一般の人には全くなじみがない。	水位周知河川 避難判断水位設定河川	案1)情報を抜いても水位を周知する河川であることはわかるので情報を省き短くする。 案2)水位のどのような情報を周知するのか不明確のため、避難判断水位を設定した河川であることを明示する。	◎ ○
樋門・樋管 (報・注)	川から取水したり川へ排水するために、堤防を横切って埋設させた水路。樋門・樋管に意味的差異はない。(河川管理施設等構造令)	○	×	×	×	—	—	専門用語であり意味が理解できない。	(排・取)水門 排・取水管	案1)厳密には意味に違いはあるが、取水や排水のための施設であるため、(取・排)を語頭に加えた上で、一般的に理解できる水門に言い換える。 案2)堤防に埋設してある施設であり、堤防を切り開いて設置する水門との違いを明らかにするため、機能によって取(排)水管に言い換える。ただし、一般的には管は円形のイメージがある。	○
排水機場 (報・注)	本川の水位が上がり、支川などの水が自然には流れずに溜まってしまふような時に、排水ポンプによりその水を排水して家屋や農地などの浸水被害を軽減する施設。(河川管理施設等構造令54～57条)	○	×	×	×	—	—	専門用語であり耳で聞いた際には意味が理解できなく、また、目で見てもわかりにくい。	排水ポンプ場	「機場」が専門用語であるため、一般的に理解できるポンプ場に変更する。	◎
(堤防)天端 (防・注)	堤防の一番高い面。天端は道路として利用されている所もある。(河川管理施設等構造令)	○	×	×	×	—	—	専門用語であり耳で聞いた際には意味が理解できなく、また、目で見てもわかりにくい。	(堤防の)上端、上面 天端(堤防の一番高いところ) 天辺	案1)専門用語であるため、対象を明確にした上で、多少意味は異なるが一般的に理解できる用語に変更する。 案2)説明をつけてそのまま使用 案3)多少意味が異なっても一般的に理解できる用語に変更	○ □ ○

その他の用語

用語	用語の意味 (法令上の根拠)	評価項目(防災用語の要件)						用語の問題点	用語改善案	改善案の理由	
		短い	耳で理解	一般語句	危険レベル	受け手の状況	意味が明確			◎専門家の間で使用する用語自体を変更 ○防災用語としては使用せず、「言い換える」が専門用語として使用 □用語は変えず、補足説明 ■変更しない	
右岸・左岸 (般・説)	河川を上流から下流に向かって左側が「左岸」、右側が「右岸」。	-	-	○	-	-	×	左右の取り違えで致命的な誤解を招く恐れがある。	〇〇市側 東西南北側	機械的な言い換え・用語の置き換えにこだわることなく、具体的な地名、方角等を用いて表現を工夫する。	○
AP (般・説)	東京湾霊島量水標零位を基準とする基本基準水面。東京湾中等潮位との関係は、AP=TP-1.1344m。東京都都市計画、東京港・荒川・中川・多摩川の土木工事に用いられる。	-	-	×	-	-	×	専門用語であり、意味が理解できない。	AP(東京湾中等潮位-1.1344m) 数値はそのままAPを標高に変更 値をT.P.に換算して標高で示す。	案1)地域性を考慮し、TPとの差を説明として加える。 案2)水系全体の値を変更することは多大な作業が伴うため、意味が理解できないAPだけを標高に読み替える。案3)APが持つ歴史的経緯が失われることになるが、高さの基準が河川毎に異なると一般の人が混乱する恐れがあるため値をT.P基準に統一する。	□ ○ ◎
YP (般・説)	江戸川口堀江量水零位を基準とする基準面の略語。東京湾中等潮位との関係は、YP=TP-0.8402m。利根川およびその支派川の土木工事に用いられる。	-	-	×	-	-	×	専門用語であり、意味が理解できない。	YP(東京湾中等潮位-0.8402m) 数値はそのままYPを標高に変更 値をT.P.に換算して標高で示す。	案1)地域性を考慮し、TPとの差を説明として加える。 案2)水系全体の値を変更することは多大な作業が伴うため、意味が理解できないYPだけを標高に読み替える。案4)YPが持つ歴史的経緯が失われることになるが、高さの基準が河川毎に異なると一般の人が混乱する恐れがあるため値をTP基準に統一する。	□ ○ ◎
堤内地・堤内 (報・説)	堤防の河川側が「堤外地」、住宅や町などがある側が「堤内地」。もともと輪中の地区など土地を堤防で囲んで人が住んでいたため、「堤内地」という言葉が生まれた。	-	-	×	-	-	×	内外の取り違えで致命的な誤解を招く恐れがある。	堤防の居住側 (堤防より居住地側) 川の外	機械的な言い換え・用語の置き換えにこだわることなく、具体的な地名、方角等を用いて表現を工夫する。	○
堤外地・堤外 (報・説)	堤防の河川側が「堤外地」、住宅や町などがある側が「堤内地」。もともと輪中の地区など土地を堤防で囲んで人が住んでいたため、「堤内地」という言葉が生まれた。 [河川法第6条]	-	-	×	-	-	×	内外の取り違えで致命的な誤解を招く恐れがある。	堤防の川側(堤防より川側) 川の中	機械的な言い換え・用語の置き換えにこだわることなく、具体的な地名、方角等を用いて表現を工夫する。	○
余裕高 (報・説)	計画高水位に達した水が波うったり、流木などが流れてきても安全なように堤防の高さに持たせた余裕。	-	-	×	-	-	×	河川技術者等の間で通称として用いられている用語であり、一般には意味が理解できないだけでなく、「余裕」という語句が誤解を招く恐れがある。			
高水敷 (報・説)	川の水が常時流れている低水路より一段高く、洪水の時には川の水が流れる所。グラウンドや公園など、さまざまな形で利用される。 [河川管理施設等構造令第72条他]	-	-	×	-	-	×	専門用語であり、意味が理解できない。	河川敷	厳密に言えば多少の意味の違いはあるが、一般的に理解できる用語に変更する	○

その他の用語

用語	用語の意味 (法令上の根拠)	評価項目(防災用語の要件)						用語の問題点	用語改善案	改善案の理由	
		短い	耳で理解	一般語句	危険レベル	受け手の状況	意味が明確				
派川 (報・説)	ある川から分かれて流れる河川。派川には放水路など人工的に分岐させたものもある。	-	-	x	-	-	x	専門用語であり、意味が理解できない。	派川(分岐して流れる川) 分岐して流れる川	◎専門家の間で使用する用語自体を変更 ○防災用語としては使用せず、「言い換える」が専門用語として使用 □用語は変えず、補足説明 ■変更しない 案1)具体的な語句を説明として加える。 案2)具体的な語句を用いて和語で表現する。	□ ○
直轄区間 (防・説)	1級河川のうち国が管理する区間。	-	-	x	-	-	x	直轄という用語になじみが薄い。一般的な表現でなく、意味が理解できない。	国管理区間	直轄という通称を具体的な管理主体を明示した一般的な語句で構成された用語に変更する。	○
指定区間 (防・説)	1級河川のうち都道府県が管理する区間。 [河川法施行令第9条]	-	-	○	-	-	x	具体的に何を指定する区間かわからない。一般的な表現でなく、意味が理解できない。	県(都道府)管理区間 (政令市の場合は、市管理区間)	「指定」という漠然とした語句を具体的な管理主体を明示した一般的な語句で構成された用語に変更する。	○
川裏 (防・説)	住宅や町などがある側。	-	-	x	-	-	x	表・裏の取り違えで致命的な誤解を招くおそれがある。	居住側(居住地側)	機械的な言い換え・用語の置き換えにこだわることなく、具体的な地名、方角等を用いて表現を工夫する。	○
川表 (防・説)	堤防の川側。	-	-	x	-	-	x	表・裏の取り違えで致命的な誤解を招くおそれがある。	川側	機械的な言い換え・用語の置き換えにこだわることなく、具体的な地名、方角等を用いて表現を工夫する。	○
法・法面 (防・説)	堤防などの斜面。	-	-	x	-	-	x	「法」が専門用語であり、耳で聞いてわからないだけでなく、文字を見ても意味が理解できない可能性が高い。	堤防斜面	一般的に理解できる用語に言い換える。	○
沿川 (防・説)	川沿い。	-	-	x	-	-	x	一般的な表現でなく、耳で聞いても意味が理解できない。音で聞いたときに「沿線」が一般的にイメージのできる用語。	川沿い	「沿線」等の同音異義語との誤解を無くすために、一般的な和語に変更する。	○
内水 (防・説)	河川に排水できずにはん濫した水	-	-	x	-	-	x	河川管理者の間で通称として用いられている用語であり、意味が一般には理解できない。	内水 内水(河川に排水できずにはん濫した水)	案1)意味を周知徹底しそのまま使用 案2)説明を付加して使用	■ □

その他の用語

用語	用語の意味 (法令上の根拠)	評価項目(防災用語の要件)						用語の問題点	用語改善案	改善案の理由	
		短い	耳で理解	一般語句	危険レベル	受け手の状況	意味が明確			◎専門家の間で使用する用語自体を変更 ○防災用語としては使用せず、「言い換える」が専門用語として使用 □用語は変えず、補足説明 ■変更しない	
設計洪水位 (防・説)	ダム設計に使われる水位で、ダムの安全性が保たれる最高の水位。 (河川管理施設等構造令)	-	-	×	-	-	×	専門用語であり、意味が理解できない。	設計最高水位 設計洪水位(ダム設計上の最高水位)	案1)水位の意味をある程度正確に表現できる一般的な日本語で構成された用語にする。 案2)用語の説明を付して使用する。	□
サーチャージ水位 (報・緊)	通常、洪水調節に使用する最高の水位。 (河川管理施設等構造令 第2条)	×	×	×	×	-	-	専門用語であり、「サーチャージ」の意味が理解できない。	洪水時最高水位 ダムの計画最高水位	水位の意味をある程度正確に表現できる一般的な日本語で構成された用語にする。	○
ただし書き操作 (報・緊)	計画規模を超える洪水時の操作(ダムの操作規則において、「ただし、気象、水象その他の状況により特に必要と認める場合」として規定されているため「ただし書き操作」と呼ばれる)。	×	×	×	×	×	-	河川管理者間の通称である上に漠然としており、意味が全く理解できない。(その他補足資料)			
常時満水位 (防・説)	平常時にダムに貯められる最高の水位(下流で使われる上水道用水、工業用水等のための容量の最高水位で、平常時に水を貯められる最高の水位) (河川管理施設等構造令第2条)	-	-	×	-	-	×	専門用語であり、意味が理解できない。特に「常時」は耳で聞いて意味がわからない。	平常時最高貯水位 常時満水位(平常時に貯められる最高の水位) 平常時利水最高水位	案1)防災上、緊急性を要する用語ではないので、長くても意味が理解できる説明的な用語に変更する。「常時」については、意味をわかりやすくするため「平常時」に変更する。満水位は、実際はその上にまだ高さ的に余裕があり実感と一致しないため貯水位に変更する。 案2)用語の意味を示す説明を付してそのまま使用する。 案3)満水位は、実際はその上にまだ高さ的に余裕があり実感と一致しない可能性があるため、利水容量上最高の水位であることを明示する。	○ □ ○
洪水期制限水位 (防・説)	夏場、大きな洪水が発生するため平常時貯められることとした、水位を下げてその容量を大きくとるために常時満水位よりも水位を低下させる場合の水位(梅雨入り頃、水位を低下させる)	-	-	×	-	-	×	専門用語であり、意味が理解できない。	洪水貯留準備水位 平常時最高貯水位(夏期) 洪水期平常時最高貯水位	案1)水位設定の目的が明確に解る用語とする。 案2)防災上、緊急性を要する用語ではないので、長くても意味が理解できる説明的な用語に変更する。「常時」については、意味をわかりやすくするため「平常時」に変更する。また、常時満水位との関連が高いため、基本的に同じ用語を使用する。 案3)洪水期の利水容量上最高の水位であることを明示する。	○ ○ ○
強雨域 (般・注)	(ここでは)1時間に30mm以上の大雨が降ると予想される(降った)地域。	○	×	×	×	-	-	耳で聞いた際に一般的な表現でなく、意味が理解できない。	強い雨が降る範囲(○時間○○ミリ以上)	耳で聞いて一般的に理解できるように和語に言い換える。	○

般 … 一般
報 … 報道機関
防 … 防災担当者
緊 … 緊急的な対応を促す用語
注 … 危険回避のための準備・注意喚起をする用語
説 … 状況を説明するために用いる用語

短い … 短い、なるべく短い
耳で理解 … 耳で聞いてわかる
一般語句 … 一般的な語句で構成される
危険レベル … 危険レベルをイメージできる、災害の状況、危険レベルがわかる。
受け手の状況 … 受け手側の(被災)状況に合わせている
意味が明確 … 意味が明確な表現になっている